書 評 BOOK REVIEW

歴史的大規模土砂災害地点を歩く　そのⅠ～そのⅢ

井上公夫　著，各号頁　別記，定価　6,000 円税別
発行：丸源書店　ISBN　別記

本書は，だれでも無料で閲覧できる土木情報ポータルサイト「いさぼうネット」のシリーズコラムとして，筆者が 2015 年 4 月に執筆を始めたコラム 1 から 66 までを 3 冊に分けてまとめたものである。本書の目的は，過去の災害に学び，それを今後起こり得る災害に生かすことである。

数か月のコラム休止期間はあったが，執筆は継続しており，2025 年 10 月にはコラム 103 が，いさぼうネットで公開された。本書のなかで筆者は，カラー印刷を駆使した詳細な分析により土砂災害の実態を明らかにしている。読者にとって本書は読み応えがあり，土砂災害への理解が深まる内容となっている。今後もコラムを通じて各地の大規模土砂災害地の歴史や教訓が筆者ならではの切り口によって明らかになることを期待している。

筆者の解説は，大学時代の地理学科の卒論から始まり現在に続く現地調査に加え，古文書等の膨大な資料に基づいている。本書を読めば，執筆に大変な時間と労力をかけていることが容易に想像でき，真に頭が下がる思いである。そして，歴史的大規模土砂災害の調査研究に関する筆者の功績が認められ，筆者は 2024 年度に「深田賞」を受賞した。

早速コラム 1 では，高知市の碑に記された寺田寅彦の言葉の由来について意外な事実を知ることになる。災害の教訓として有名な「天災は忘れられたる頃来る」という言葉は，彼の言葉を聞いた人からの言い伝えだったことである。

ひとつの大規模災害に対して，通常はひとつのコラムで構成されるが，筆者はいくつかのコラムに分けて大規模土砂災害の全貌を明らかにしている。印象的なコラムは，2023 年で 100 年を迎えた関東大震災に関するコラム（そのⅡ，37~40）である。コラム 74，82，83，84，87，88，93，94，95，97 でも関東大震災による土砂災害を扱っている。今後 30 年以内にマグニチュード 7 クラスの首都直下地震の発生が想定されている。一連のコラムから地震による土砂災害が人々の生活や植生に与える影響を知ることができる。

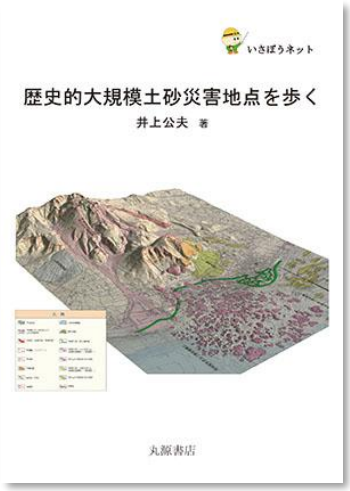
現在，全てのコラムがインターネットで読めるが，いさぼうネット運営者の都合や停電で閲覧できなくなる可能性がある。本書が手元にあれば読めなくなる心配がない。

近年，地理学，地形学，地質学の視点から地域の歴史や文化を現地で歩き学ぶテレビ番組が注目されているが，この番組と同じ視点から災害，防災の歴史を学べる本書がもっと世間の人々に読まれてほしいと強く思っている。

土砂災害による荒廃地に対応する緑化技術者，研究者，学生は，これら 3 冊を読み，これまで繰り返されてきた土砂災害の歴史的背景を知ったうえで被災地域の植生回復を行う意義を見出してほしいと願っている。

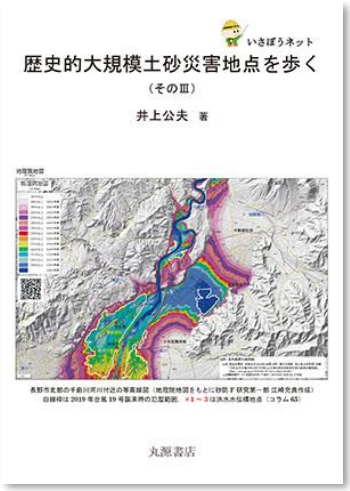
本書は，一般書店での販売が終了した。今でもアマゾンで新刊・中古本を購入できるが，かなり高額である。販売開始から 5 年以上経過したため，筆者の手元には，そのⅡが 20 冊，そのⅢが 30 冊残っている。入手希望の方は，筆者の井上（k-inoue@sff.or.jp）までメールで，氏名・所属・送付先住所・電話番号を連絡いただければ，残部がある限り，着払い便で贈呈します。これを機会に，ご一報願います。

小川泰浩（森林総合研究所）



そのⅠ　263 頁
ISBN978-4-9904459-5-9

そのⅡ　305 頁
ISBN978-4-9904459-6-6



そのⅢ　267 頁
ISBN978-4-9904459-7-3